



市長からの手紙

52 地方創生

去る8月31日、川越市の人口が35万人に達しました。前号の広報川越でお知らせし、新聞でも報道されましたので、ご存じの方も多いことと思います。すでに人口減少社会に突入した日本の中で、微増ながら人口が増え続けていることは、自治体として大変喜ばしいことであると思います。

昨年5月、民間研究機関の日本創成会議が公表したいわゆる「消滅可能性都市」が話題となりました。政府は2020年までに東京圏への人口転出転入を均衡させることを国の総合戦略の基本目標の一つに掲げています。年間10万人の転入超過という現状を、転入を6万人減らし、転出は4万人増やすことにより均衡させる計画です。

ところで、最近都内を歩く機会が何度かありました。以前、都内に毎日通っていたころは全く意識しなかったのですが、改めて地方創生の目標を意識しつつ都内の状況を見ると、やはり圧倒的に人が多いこと、飲食店にしても物販店にしても、思わず入ってみたいくなるような魅力的な店、いろいろな工夫を重ねていることが感じられる店が多いことを、歩いた先々で感じました。お店だけではありません。働く場もたくさんありますし、大学・専門学校など勉学のための施設、劇場などの文化施設、公共施設なども数多くあります。

このように、人の社会生活のさまざまな面において突出して優位にある東京と、それを取り巻く圏域に人口が集中してくることを抑制するのは、大変困難な課題であると思われます。

現在策定している「川越市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、当面の人口を現在の水準で維持することを(数値)目標とし、川越の魅力を生かして、「住んでみたい」「住んでよかった」と思えるまちの実現に向けた施策を、しっかりと実施していく予定です。

川越市長 川合善明

環境にやさしい行動を目指して7
自ら考え、活動する「子どもエコクラブ」

環境政策課 224-5866



と思いやりを育んだ1日となりました。

家族で、友達同士で、近所の皆さんで、子どもエコクラブを始めませんか？ 環境に興味がある子ども2人と、サポートする大人1人の最少3人から、子どもエコクラブの登録ができます。登録することによって活動に役立つツールや、さまざまな情報を得ることができます。昨年度の市内エコクラブの活動の様子や登録の方法については、市ホームページをご確認ください。

子どもたちからは「川の力つてすごい」「不老川では見かけたことがない生き物がある」「面白い名前の虫！」「ぶにぶにして、感触が面白い」などの声があり、仲間と一緒に楽しみながら、自然に対する関心